

【生薬名】 檳榔子 *ARECAE SEMEN*

【起源植物】 ビンロウ *Areca catechu*



【科名】 ヤシ科 *Palmae*

【別名】 檳榔樹(ビンロウジュ)、檳榔椰子(ビンロウヤシ)

【薬用部分】 檳榔子(種子)、大腹皮(繊維質の果肉)

【主成分】 アルカロイド(アレコリン等)、タンニン、脂肪油、ステロール類(シオスタゲニン等)

【薬性】 檳榔子：気味は苦辛温、帰経はに属す

【効能】 ●檳榔子、大腹皮ともに水を巡らせて利尿する作用がある

●檳榔子は駆虫作用がありミミズは1時間で死亡させ、条虫は麻痺させ虫体を弛緩、排出する

●未熟種子の煎液は家畜の条虫駆除に使われ、ミミズやヒルの殺虫にも使われる

●健胃、整腸、下痢止めに大腹皮1日4～6gを煎服する

●鬱滞を散らし、瀉下、殺虫作用のある薬物である。黄宮綉は「その味苦であり降を主とする。堅を破り、脹を消し、食を下し、痰を行らし、水を下し、気を降し、虫を殺し、便を開く」

●健胃、消化、収斂、駆虫剤などとして、脚気、腫脹、腹痛、消化不良、便秘、条虫駆除等に応用

●臭化水素酸アレコリンの原料、縮瞳、眼底血圧下降薬。

【備考】 ●染色には実が使われる

【出典】 ●檳榔子 辛、温、気を破り、虫を殺し、水を逐い、痰を祛り、専ら後重を除く。(薬性歌)

●逆気を降ろし、肌膚中の水気浮腫、脚気雍通、瘡癩痞満、胎気悪阻を治し、脹悶を消す(本草綱目)

【処方例】 ●九味檳榔湯、延年半夏湯、柴胡飲子